

平成19年8月4日（土）

地域テーマ「地域の子育て支援と児童館について」

ゆずり葉コミュニティ

代表 中 村 一 雄

今日のテーマの資料については、お渡ししています、広報紙「ゆずり葉だより」の3面に、その要点を掲載しています。

テーマであります、未来を築く、地域の子育て支援は、大切であります。宝塚市内の7番目となる、野上児童館が、来春に開館されることは、大変、うれしい事であります。児童館は、子どもに健全な、遊びと交流の場を提供し、また、核家族化により、孤立している親への、子育て支援の場としての、大きな役割を果たします。

このような観点から、ゆずり葉コミュニティは、逆瀬台小学校区の、まちづくり地域計画を、平成14年に、まち協の、トップを切りまして、市に、提案しました。昨年の地域創造会議でも、この同じ画像で取り上げました。もう20年も、あき地のままの、逆瀬台1丁目の、この市有地に、児童から高齢者のふれあい施設「交流複合施設」を新設する事を、提案してまいりました。これは、県道に隣接しており、隣はエネオス、背後は白瀬川と立地条件に恵まれ、非常に便利な場所であります。この市有地を早く活用する事を要望いたします。

さて、ゆずり葉コミュニティの、地域の、子育て事例としまして、逆瀬台ミニ児童館の開館があります。宝塚市立高司児童館から出前で、場所は、逆瀬台サービスセンターを使って開館しています。また、同じ場所の逆瀬台サービスセンターを使い、子育ては、まず親育ちが大切であり、毎週親子育てグループ「かぼちゃ」が、0歳から就園前までの、親子遊びを、中心とした活動の中で、子どもたちの発達や、かかわり方を、学びあって、平成8年から活動しており、メンバーも大変多く、にぎやかで、あります。最近言われました言葉は、若いお母さんの集まりになっていますので、いろんな体験話しを聞きたいから、おばあちゃん、おじいちゃんの参加をして欲しい、と言われてしています。

そして、逆瀬台小放課後、遊ぼう会は、200人以上の児童が、小学校の運動場で自己責任で、禁止事項を少なくして、自由に遊び大盛況であります。

小学生の新入生を歓迎し、卒業生を送って祝い、地域への愛着心を、育む機会の場づくりとして、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんの、三世代交流事

業を行っています。小学校、家庭、それに地域が連携してやっています、小学校の運動会は、ちょっと工夫をして、校長、地域の会長が仮装などをし、場を盛り上げて、皆で楽しんでいます。秋の音楽会には、地域からも、コーラスで参加しています。高齢者と小学生の交流を図る事業として、総合学習への参加、ふれあい工作教室とか、伝承的遊びなど、ボランティア活動を行っています。

健康で、明るく、楽しいまちづくりにコミュニティとスポーツクラブとが、協働活動をしています。子どもたちの健全育成に向けて、クラブもたくさん作って活発であります。文化庁委嘱事業として、「伝統文化こども教室」があります。それは、子どもたちが歴史、伝統、文化に対する、関心や理解を深め、豊かな人間性をかん養する子ども教室があります。平成17年から毎月やっています「いけばな教室」が盛んで、西山小学校からも、参加されています。いけばなの材料は、宝塚高校と合同で、植樹しました、雪柳とか南天など、1年を通して、地域活動で作った四季の緑と花を題材に提供しています。

「ゆずり葉まつり」は、PTA、学校、地域が5月から、打合せを行い、秋に、にぎやかに行われます。校長先生も小学生の中に入り、にぎやかであります。小学生が、このように、自発的に楽しんで、おります。

逆瀬台自治会の夏祭りや桜まつり、秋の文化祭、光ガ丘自治会の盆踊り大会、オータムコンサート、クリスマス会など毎年継続して行われ、地域の子どもたちが、この大きなイベントを心待ちに、楽しみにしています。

また子どもたちの事例は、健常者ばかりではありません。障害児のサポートについては、昨年12月に設立総会を開き、「NPO法人きらり」が今年4月に、兵庫県の、NPO法人認証を受けて、5月から障害児の自立支援を、サポートしているところであります。

次に、子どもたちへの防犯についてであります。登下校時の児童見守隊、アトム防犯パトロール、特に地域児童育成会の児童は、遅くなりますので、児童全員の、安全を期すため、ボランティア編成を作り活動しています。また児童の登下校時に、あわせた散歩など、わんわんパトロールのきょう章500枚を作って、胸からぶらさげて活動しています。防犯の抑止力対策として「ゆずり葉緑地公園」の道路脇に「監視カメラ」の新設、また地域全体で防犯標語の募集を行い、その中から3種類を採用し、防犯プレート、270枚をつくり、掲示しております。

子どもたちへの、交通安全のまちづくりであります。スクールゾーンでは、毎朝

登校時に立ち当番で交通整理をしています。スクールゾーンは、登校時の7時半から8時半の時間帯は、車両通行禁止となっていますが、通り抜けの車両が非常に多く、このため、警察の通行許可書を車両の見やすいところに、掲示するよう、地域として、度々、広報紙で啓発しています。

また、車両用の信号機はありますが、横断歩道用の専用信号機がなく、遠く離れた車両用信号機を見て判断するため、児童見守隊がついている時は、的確に信号機を見て、横断していますが、子どもたちだけの時は、判断しにくい状態であり、危険な状態になっていますので、横断歩道専用信号機の設置を、小学校長、PTA会長、地域会長の連名で、先月交通安全課に、要望しました。

ところで、児童館の設置は、大切であります。我々身近にある豊かな自然の、有効活用をした、子どもの居場所づくりも、大切であります。気持ちの良い、冷暖房のある場所も、良いのですが、健康的でさわやかな、風にふかれ、さんさんたる太陽の光にあたる、子どもの居場所作りが、大切であります。豊かな自然、住宅街にある、身近な森の広場には、パネルの部材を、買って組み立て、ベンチを作って、気楽にあつまれる、森の広場づくりを行っています。この広場を活用した、大きな、木の枝から、吊るしたロープでの、森のブランコ遊び、ハンモックでミノムシ遊び、木の枝を利用したクラフトづくり、それに子どもたちは、水遊びが大好きです。広場のすぐ横を流れる、白瀬川に入り、水遊びで、おおさわぎします。そして、宝塚市は、大小の公園がたくさんあります。市内で5、6番目の広さにある「ゆずり葉緑地公園」が、子どもたちの居場所、遊び場所として、大切であると思います。公園はまず、清潔でなければ活用されません。火をたいたり、バーベキューは禁止になっていますが、他の地域から来る人たちが、バーベキューをして、その後始末は、しない、ゴミはほって帰るのが、現実であります。この清掃活動は、ゆずり葉コミュニティ設立以来、この公園のクリーンハイキングを、続けていますし、ある個人ボランティアが、犬の散歩で、毎日ゴミ袋を片手に、拾い集めてくれています。この公園が、住宅街の身近な場所にあり、いつでも誰でも、安全、安心で清潔感のある公園で、大人も、こどもも、全世代が、やすらげる、楽しめる、居場所、遊び場所として、活用できるように、支援しなければと、考えます。

次に、平成6年に「逆瀬台幼稚園」を廃園して作られた、地域交流スペース「つどいの広場」が、聖霊福祉事業団の、管理する、逆瀬台サービスセンターの中にあります。この画像のように、ウイクデーは6時頃から、日曜日は1日中、扉がしまっ

ています。我々の活動拠点「ゆずり葉コミュニティルーム」は、この扉の奥に、ふくろこじにありますので、便利に使えるように話し合っているところです。野上児童館は、7番めになりますが、聖霊福祉事業団が運営する、御殿山児童館は、開館時間が、他のところもそうですが朝10時から午後5時までとなっています。6番目に出来ました西谷児童館は、NPOが運営して、いろいろと頑張って朝9時から夜9時までとなっています。拠点施設の活用は、地域コミュニティ活動の活性化に、重要な役割を、担います。

最後の項目になりますが、他市における「まちづくり協議会」の現況であります。愛知県高浜市では、個人市民税の1%を「まちづくりパートナーズ基金」として積み立て、これを各小学校区で「NPO法人〇〇小学校区まちづくり協議会」を設立させて、「地域内分権推進事業交付金」として交付しています。

我々まちづくり協議会も、行政から権限と財源が移譲され、地域内分権が進む時代、この視点に立ち、**住民総意の議決権を明確にする、逆瀬台小学校区の組織強化**を図って、昨年12月に「**逆瀬台小学校区自治会協議会**」を設立しました。その成果の一つとして広報紙1面にありますような、「**県民交流広場事業**」を実現しました。**住民の合意形成には、広報紙4面にありますようなITを活用した受信・発信の双方向の、情宣活動が、非常に大切であります。**「まちづくり協議会」は、子育て支援、防犯、高齢者対策など、広い分野の課題をかかえています。縦割り行政、民生児童委員、青少年育成市民会議、人権啓発推進委員会、PTAなどと、連携しながら、「**逆瀬台小学校区自治会協議会**」が中核となった「**逆瀬台小学校区まちづくり協議会**」の形成を図ります。具体的に、広報紙1面にありますように、会則の改正について、検討してまいります。いずれにしましても、**住民の自律と参画をうながし、個人が権利だけの主張をするのではなく、その責務の実践する、大切さを、認識し、市民自治による、逆瀬台小学校区のまちづくり**を図ってまいります。

以上終わりとさせていただきます。